

延岡に新たなブランド

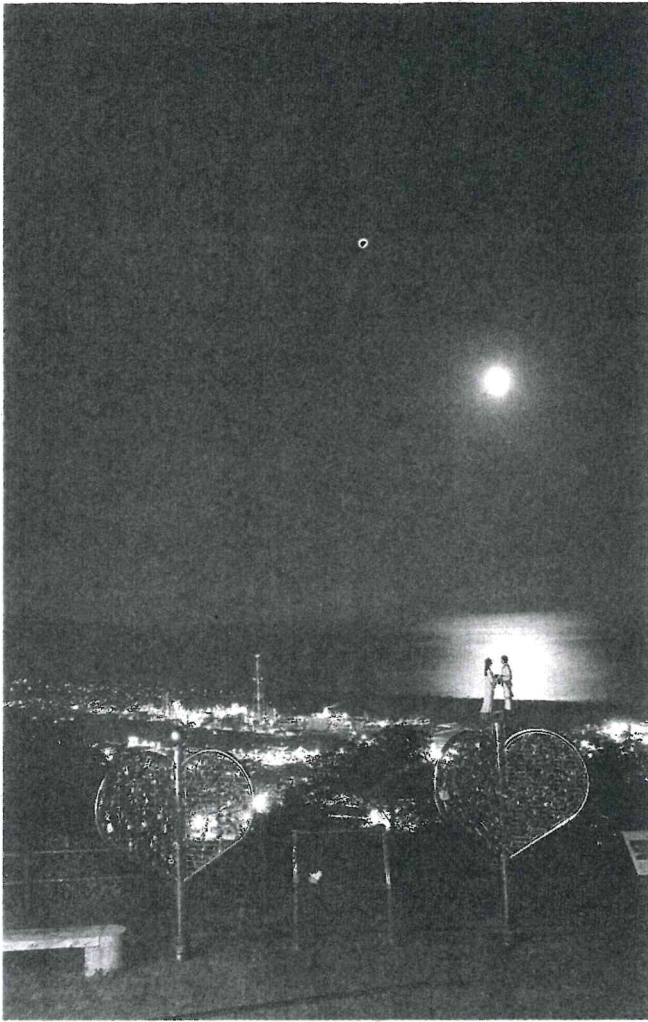
「日本百名月」に認定登録

10/24 愛宕山から見た海から昇る幻想的な夜景

九州で5カ所目

延岡市は22日、同市の「愛宕山展望台から望む月」が日本を代表する名月（夜景観光）として、一般社団法人夜景観光コンベンション・ビューロー（東京都中央区）が選ぶ「日本百名月」（第57号）に認定登録されたと発表した。九州では5カ所目、県内は初めて。

日本百名月プロジェクト 即した観光視点から捉え、より強い日本の夜景を目的に、今後百年続く資源へと昇華させること。新たな観光ブランドづく



に開かれた推進委員会の第6回日本百名月の選定で決まった。

登録認定は2016年からスタートし、第1回から第5回の推進委員会で52カ所を認定・登録。第6回目となる今回は延岡市を含め6カ所が選ばれ、認定登録地は計58カ所………日本百名月に認定登録された「愛宕山展望台から望む月」

所となった。今後も継続的な調査と選出を実施し、全国100カ所の名月地を選定していくという。

愛宕山は延岡市南部に位置する標高251.3mの山。古くは「笠沙の山」「笠沙の岬」と言われ、ニギノミコトとコノハナサクヤヒメが出会い、結婚したとの伝説が残ることなどから、「出逢（あ）いの聖地」として親しまれている。

山頂付近の展望台からは延岡市街地を一望でき、晴れた日は日向灘はもちろん、四国の山並みまで見えることがある。夜は眼下の市街や半島など、海岸線に沿って夜景が広がる。工場地帯や住宅街など明かりの種類も

豊富で、04年には「日本夜景遺産」に認定されている。

同法人は「広々とした空や海は月を愛（め）でるロケーション」として抜群の開放感だ。満月が昇る日は大海原に『月の道』が浮かび上がり、夜景がより幻想的に昇華。まるで街明かりと自然の月が出逢い、結ばれていくような幽玄なる光景を楽しめる」としている。

読谷山市長は「夜景の美しさに加え、日本百名月が鑑賞できる場所、しかも神話の神々の出逢いの地であることを多くの人に伝え、多くの人に来ていただきたい。延岡の魅力さをさらにPRしたい」と話していた。

九州の「日本百名月」

- 認定登録地はこのほか、「稲佐山から望む月」（長崎県長崎市、第4号）、「竹田市・岡城・荒城の月」（大分県竹田市、第37号）、「たがわ炭坑節の月」（福岡県田川市、第41号）、「水郷柳河の月」（福岡県柳川市、第50号）。